

石灰散布していますか？
 草地にカルシウムを
 補給しよう！



写真1 散布風景

飼料高騰の中、自給飼料の高品質化が増々重要になってきています。植生維持や自給飼料から効率よく供給するために、基本技術の石灰施肥を見直してみませんか。(写真一)

一、カルシウムの必要性

草地管理において、カルシウムが不足するとpHの低下などで、適正な植生維持が困難になり、施肥効率も低下します。

写真二は、根釧農試でカルシウム、マグネシウムの施肥効果

を長期的に確認している圃場です。毎年カルシウム、マグネシウムを散布している右上の区は、植生が良好に維持されています。

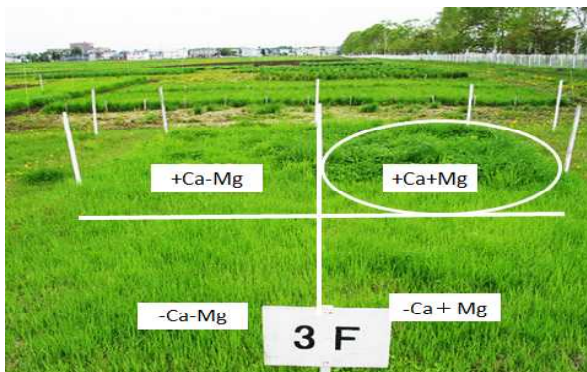


写真2 カルシウム、マグネシウムの連用効果試験

二、散布量について

草地土壌に対する適正なpHは五・五〜六・五となっています。マメ科牧草の生育促進、維持には、pHが五・五以下にならない前に矯正します。定期的に土壌分析を行いpH、石灰量をご確認ください。良質な牧草を収穫している方で、草地更新後三年目から、一〇アール当たり二〇キロ程度毎年秋散布している事例もあります。

根釧農試のデータでは、三年毎に三十キロの施用で収量を十分維持できるとされています。(表一)まずは、一〇アール当たり二〇〜三〇キロ程度散布してみてくださいいかがでしょうか。

3年毎施用量kg / 10a	生収量 kg/10 a
無石灰	3,973
30	4,410
60	4,450
120	5,085

表1 牧草への石灰施用効果 (根釧農試S62)

三、散布する資材について

石灰資材は、土壤改良剤の中で唯一百パーセント国内で生産されているものです。

表二に石灰資材の特徴を示しました。様々な製品があります。特徴や価格などを検討し散布してください。

資材名	アルカリ分%	特徴
タンカル	53	酸性矯正と石灰を補給します
防散タンカル	50	ブロキャストで散布可能
ライムケーキ	30	水分が高く専用の散布機等が必要
粒状牧テ・ か殻等	46~53	ほぼタンカルと同等な効果 粒径が細かいと効果が高い
貝化石	33	カルシウム溶解量が高い

表2 石灰資材

四、散布時期について

通常は、秋施用が一般的ですが、作業の合間を縫って夏に散布する事例も見られます。

五、まとめ

近年は、アルファアルファの作付も増えてきています。マメ科は高めのpHとカルシウムを好むので特に積極的に散布が必要になります。皆さんも積極的に石灰資材散布に取り組んでみませんか？(平成二十五年七月) ご相談は普及センターまで。

(平成二十五年七月作成)